

2016年度 事業活動報告

I 食のセーフティネット事業（食料支援）

2016年度は、生活困窮世帯に延べ2336件、約22トンの食品を宅配便でお送りいたしました。また、「フードバンクこども支援プロジェクト」においても、夏と冬を合わせ約13トンの食品を子どものいる生活困窮世帯にお届けしました。さらに、緊急的に食料が必要な方のために、行政などを通して直接手渡しする緊急食料支援では、333回、約4トンの食品を提供しました。

連携機関との情報交換や個人宅配による定期的な食料支援を継続して行いました。緊急食料支援についても、全県下で行いました。

1 個人宅配

- (1) 連携機関からの申請により、食料支援が必要な方へ、1ヶ月に2回（第2・4週）の個人宅配発送を実施しました。年度内で配送した数は合計で2336箱、重量は合計で22148.9kgとなりました。[別添資料1](#)



- (2) 個人宅配には、食品以外にも七夕の短冊や、クリスマス、バレンタインカードなど季節に応じた企画品を箱に詰め、社会との絆を回復する支援を行いました。お送りしたものは山梨英和中学校・高等学校のYWCAひまわり部の生徒の皆様にご作成いただき、生徒の社会貢献活動の場としても機能しました。



YWCA ひまわり部の皆さんが作成した短冊とクリスマスカード

フードバンク様、いつもお世話になります。
食品が届きました。本当にありがとうございます。
います。感謝しております。苺和中学校、
高等学校のバレンタインカート付チョコレートあ
りありがとうございます。子供たちが大変喜
びました。又、娘が少し花粉症に掛かりました。
朝が1番つらそうです。鼻水がかなり出る見
えです。見ているだけでも、かなりつらそうです。皆様
お付けて下さい。これこそどうぞ宜し
お願い致します。

お送りした世帯からも、感謝のお手紙をいただきました。

- (3) 電話や訪問による相談の際にお送りした食品の利用状況を確認し、可能な限り利用者のニーズに合った食品が調整できるように、個人宅配発送にフィードバックしました。
- (4) 昨年一年間、箱詰めを土曜日に設定し、市民のボランティア参加を促しました。検証の結果、平日の方が定期的に参加しやすいことが判りましたので、今年度からは、平日（木・金曜日）に作業日を設定しました。一方、イベント等を土日開催することで、休暇中の学生が参加しやすいよう配慮していく予定です。
- (5) 箱詰め作業効率化のため、飯野倉庫の適切な食品の配置や人数について検討しました。箱詰めボランティアの人数については10名から20名が望ましいことがわかりました。
- (6) 地域に埋もれている困窮者への支援を強化するため、連携する機関に対し、口頭や文書、説明会の実施により申請を働きかけました。

2 緊急食料支援

- (1) 個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、自立相談支援窓口や連携団体を通じて直接手渡しする緊急食料支援を、全県下で行いました。年度内に実施した緊急食料支援回数は 333 回、総重量は 4163.1kg となりました。[別添資料 2](#)

3 心の交流と個別ファイルによる情報管理

- (1) 手書きの手紙と「ふーちゃん通信」を交互に入れ、利用者との心の交流を図り、有用な情報提供を継続実施しました。[別添資料 3、4](#)
- (2) 支援経過を個別ファイルに記録・保管しました。必要な場合は、自立相談窓口と連携しました。

II 子どもへの支援

夏休みや冬休みの子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートするため、昨年度に引続き「フードバンク子ども支援プロジェクト」による食品宅配を夏に 5 回（222 世帯に 8224kg）、冬に 1 回（511 世帯に 5365.5kg）実施しました。[別添資料 5](#) 夏の支援では、中央市・中央市教育委員会と子どもの貧困対策連携協定書を締結し、モデル的に 8 つの小中学校の準要保護世帯に食料支援申請書を配布しました。その結果、行政で把握していなかった 80 の「見えない貧困世帯」への支援につながりました。冬には南アルプス市・笛吹市に連携を広げ、食料発送とともに学習会やフードバンクキッチン（バーベキュー）、相談事業を組み合わせた包括的な支援を実施することができました。

また、教員と利用者を対象としたアンケート調査の結果、学校と保護者間だけでは解決が難しい子どもの貧困問題が浮き彫りになり、NPO・市民・企業・行政が連携して支援し、困ったときには誰もが SOS を出せる環境を地域社会の中に作っていく必要性が明らかになりました。



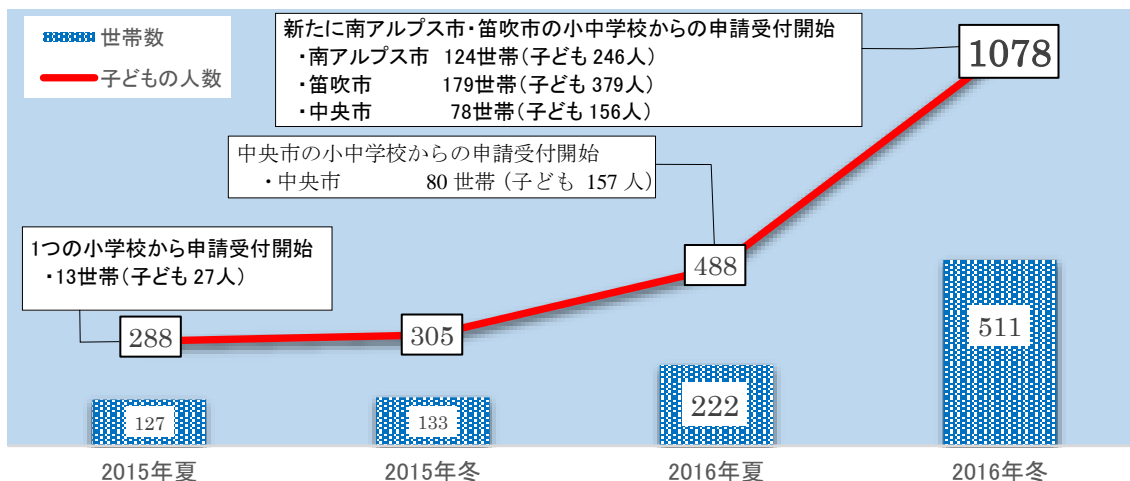
1 「フードバンクこども支援プロジェクト」の実施

(1) 小林製薬株式会社と連携し、「フードバンクこども支援プロジェクト」の一環として母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進し、夏・冬合せて、延べ733世帯(2631人、子ども1566人)に13589.5kg(13トン)の食料支援を実施しました。子どもの貧困の把握に関する食料支援世帯アンケート調査では、多くの世帯が食料支援を利用して家計の負担の軽減ができたと回答し、「いつもは1合しかお米が炊けないが1.5合に増やすことができたり、お菓子や乾物で一品増えたりした」といった記述もありました。また、定期的に食料支援と手紙等による心の交流を実施することにより、親の不安軽減にもつながることが明らかになりました。

フードバンクこども支援プロジェクト食料支援実施について

日程	実施内容
7月30日、8月6日 13日、20日、27日	(ア) 夏休みの食料支援(毎週土曜日、5回食品発送)
12月23日	(イ) 冬休みの食料支援
12月23日	(ウ) ラッピングセレモニー～みんながサンタになる日～

フードバンクこども支援プロジェクトにおける食料支援利用世帯数推移



(ア) 夏休みの食料支援

・行政機関から申請のあった120世帯と、連携団体である中央市の学校から80世帯の申請が加わった合計222世帯に対して、7月末～8月の毎週1回(計5回)の食料支援を実施しました。申請情報をもとに各家庭の人数や年齢等の状況を見ながら、配送する食料の品目、数量などを決定し、通信や手書きの手紙を添えて宅配しました。通信は子どもたちに興味を持ってもらえるような話題を掲載しました。**別添資料6**

2016年夏 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	222 世帯
支援人数	808 人
19才以下の子ども的人数	488 人 (全体の 60%)
母子世帯数	185 世帯 (全体の 83%)
食品配送回数	1085 回
学校からの申請世帯	97 世帯
支援食品量	8224 kg (8.2 トン)
延べボランティア参加者数	203 名
協賛企業・団体数	25 企業・団体

・第 1 回目の箱詰めフードバンクこども支援プロジェクトスタートイベントを開催しました。約 50 名の市民ボランティアが参加。議員 5 名、南アルプス市長、中央市教育長など行政関係者も集まり、食品の箱詰め作業を行いました。(場所：白根 B&G 海洋センター)



・第 2 回目以降は、フードバンク山梨飯野倉庫にて箱詰めを行ないました。市民・学生・企業ボランティアが毎回 20 名前後、宅配日に集まり作業を実施しました。

利用者からの返信ハガキ

1 人の小学生を育てる母子世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

夏休み中のご支援、とても助かりました。いつもいつも生活が大変な時に助けていただきとても感謝しています。また娘は食べ盛り育ち盛りで、彼女を見る度に、頑張りなぞと思います。それでも疲れた時ほど今日は、いただいた、ご飯とみそ汁で済ませよう、とそんな事が出来たのもフードバンクのおかげだと感じました。私に出来る事は、協力させていただけたいと考えています。

2 人の小学生を育てる母子世帯

生活の様子やご希望など自由にお書きください

食品をいっぱいいただきありがとうございます。ご支援ありがとうございます。いつもありがとうございます。うれしいです。いつもありがとうございます。ありがとうございます。

いつも、ありがとうございます。人のためにやさしく、おかげで実感しました。ありがとうございます。

(イ) 冬休みの食料支援

・夏の申請世帯に加え、南アルプス市及び笛吹市の学校を通じて寄せられた新規申請を含め、511 世帯に食料支援を実施しました。また、普段プレゼントをもらう機会の少ない子どもたちへクリスマスプレゼントを同封しました。

2016 年冬 フードバンクこども支援プロジェクト実績	
支援世帯数	511 世帯
支援人数	1823 人
19 才以下の子ども的人数	1078 人 (全体の 59%)
母子世帯数	382 世帯 (全体の 75%)
食品配送回数	511 回
学校からの申請世帯	380 世帯
支援食品量	5365.5kg (5.4 トン)
延べボランティア参加者数	183 名
協賛企業・団体数	30 企業・団体

食品発送日 (計 1 回) : 12 月 23 日 (金)

実施場所 : 若草生涯学習センター わかくさホール

(ウ) ラッピングセレモニー ～みんながサンタになる日～

・県内外から 100 人 (うち議員 4 名) の市民が集まり、食品とクリスマスプレゼント (お菓子パック、こども商品券) を箱詰めしました。多くのボランティアのお蔭で、その日のうちに 511 世帯分の食品を発送することができました。協賛企業やスクールフードドライブ参加機関には感謝状を手渡し、日頃の感謝を伝えました。また、メディア 6 社が取材に訪れ、活動への周知につながりました。



県内外から 100 名以上のボランティアが参加



食品を箱詰めするボランティア



完成した発送用食品箱

(2) 行政等との連携で 15 の拠点を作り、メディアで積極的に食品寄付を呼びかけたことで取り組みが周知され、多くの食品が寄せられました。今回、初めてヴァンフォーレ甲府と共同で実施したフードドライブは、サポーターから 426kg の食品が寄せられ、また、スクールフードドライブは県立高校や大学 17 校が校内で食品を集め、取り組みを通して貧困問題を考える機会となりました。

実施日

日程	実施内容
7月17日～	(ア) ヴァンフォーレ甲府と連携したフードドライブ
12月1日 ～12月8日	(イ) 全国フードドライブキャンペーン第13回フードドライブ

(ア) ヴァンフォーレ甲府と連携したフードドライブ

・Jリーグ ヴァンフォーレ甲府とのフードドライブ

ヴァンフォーレ甲府との共同でフードドライブを開催し、426kg の食品が寄せられ、ロータリークラブ、ボーイスカウト、ボランティアによる受付・食品整理などの協力があり、円滑にイベントを進めることができました。また、ポスターを作成し、会場で掲示することで来場者への活動の周知に努めました。



「ヴァンフォーレ甲府 VS 鹿島アントラーズ」ホームゲーム 山梨中銀スタジアムにて

(イ) 全国フードドライブキャンペーン、第 13 回フードドライブ

・市民、企業、団体からのフードドライブ

企業をはじめ公的機関や各種団体でフードドライブを実施し、4.3 トンの食品が寄贈されました。市民が直接、フードバンク山梨の事務所に持参した寄贈食品は、2.9 トンに達しました。

・スクールフードドライブキャンペーン

県立高校をはじめ私立大学や専門学校 17 校でフードドライブを実施し、1.9 トンの食品が寄贈されました。生徒が貧困問題を考える機会になり、本プロジェクト終了後も定期的に生徒会や PTA が中心となってフードドライブを呼びかけたり、三者懇談の際に家庭から食品を持ち寄るなどの方法で実施されました。

- (3) 経済的な理由で塾に行けなかったり、親が働くことに精一杯で宿題を見てもらうことができない子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を実施しました。自尊感情を高め、自信をつける心の支援になりました。フードバンクキッチン（バーベキュー大会）は、「夏休みにレジャーにつれていけない」との利用者の声を受けて実施。家族での参加を促し、楽しい夏の思い出作りとなりました。

実施日

日程	実施内容	参加者
8月10日	(ア) 夏休み学習支援	16人
8月21日	(イ) フードバンクキッチン（バーベキュー大会）	36人
平成29年1月7日	(ウ) 冬休み学習会「いっしょに勉強しようよ！」	26人

(ア) 夏休み学習支援

・参加者は、小学生、中学生の 16 名。元教師や塾講師 10 人のボランティアと夏休みの宿題を勉強しました。昼食は、ポテトサラダ、ロールサンド、スープを作り、食育の話を聞きながら食べました。帰りには修了書、お土産、参考書をもらい皆笑顔で帰途につきました。



勉強する子どもたち

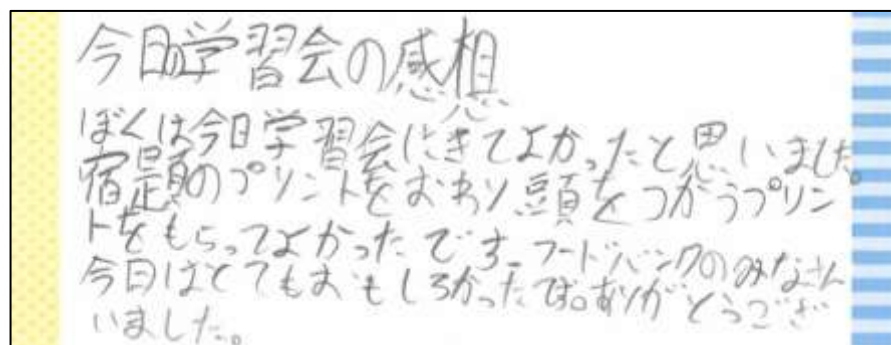


(株) キューピーの協力で食育を実施



可愛らしいロールパン

参加者の声



(イ) フードバンクキッチン (バーベキュー大会)

・36名が参加し、バーベキューやニジマス釣り、スイカ割り、水遊びなどを楽しみ、夏休みの思い出づくりとなりました。この取り組みを実施するにあたり、甲府北ロータリークラブから食材の準備、ボランティアなどの協力がありました。



50円でできるサラダづくり



お腹いっぱい食べられるようにと用意された食材



家族で鱒釣りに挑戦



スイカ割りで割ったスイカをデザートにしました

(ウ) 冬休み学習支援 「いっしょに勉強しようよ！」

・参加希望者が増加したこと、「遠くまで送迎ができない」という親からの声を受け、南アルプス市と中央市の2会場を用意して学習支援を実施しました。参加者は、小学生、中学生の26人。冬休みの宿題や習字などを楽しく勉強しました。昼食は、おかゆ、サンドイッチなどを作り、七草粥などの食育のお話を聞きながら食べ、帰りには修了メダル、パンや菓子などのお土産をもらい皆笑顔で帰途につきました。



南アルプス市会場の様子(習字などの宿題にも対応しました)



中央市会場の様子



(株) キューピーによる食育の様子

参加者の声

13-ピコさん達がきて、お昼ごはんを作りました。
 私の大好きなおはん(おかゆ)が出ておいしかったです。
 自分のありがたいおはんはおいしかったです。
 自分のお昼ごはんは、おかゆをありがたいに作れると思います。
 宿題は私に分からなかったけど、先生が分かりやすくおしえてく
 れたので、良かったです。4コマ、131のプリントを先生とやっていて
 楽しかったです。

2 教育機関との連携強化

- (1) 教育現場で把握した生活困窮家庭への食料支援を実現するため、学校からの申請を受け付ける、新たな支援方法にモデル的に中央市と取り組みました。冬には新たに南アルプス市と笛吹市とも連携し、小中学校から新規の申請が383世帯ありました。

実施日と実施内容

①中央市

日程	実施内容
平成28年2月30日	中央市長訪問
2月18日	中央市教育長・教育総務課長訪問
4月8日	校長会(8校)での事業説明
4月14日~6月2日	各校へ個別訪問
5月12日	子どもの貧困対策連携協定の締結
9月29日~10月20日	教育機関へのアンケート調査実施

②南アルプス市

日程	実施内容
8月31日	南アルプス市教育長訪問
10月6日	南アルプス市教育長へ事業説明
10月17日	校長会(22校)での事業説明

③笛吹市

日程	実施内容
11月15日	笛吹市長訪問
11月1日	笛吹市生活援護課担当者に事業説明
11月25日	校長会(19校)での事業説明
12月5日	子どもの貧困対策連携協定の締結

(2) 子どもの貧困対策に連携して取り組むことを目的に、中央市・笛吹市と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。



中央市・教育委員会



笛吹市・教育委員会

3 スクールソーシャルワーカーとの連携強化

(1) 食料支援を、より多くのこどものいる困窮世帯へ届けられるよう、スクールソーシャルワーカーの会議に出席し、説明と申請の呼びかけを行ないました。



4 教育現場での講演会開催

(1) 食品ロスを福祉に役立てるフードバンク活動を子どもたちに知ってもらう講演会を実施しました。

5 教育機関・利用者へのアンケート調査

- (1) 小中学校教諭を対象に実施したアンケート調査を行ないました。212人中、153人が回答しました。(回収率 72.2%)

調査結果の要点

1. **約半数の教員が子どもの貧困を把握している**
2015年4月から2016年9月までの期間において、回答した教員のうち、約半数の47% (71名) が「子どもが貧困状況にある」と感じた経験が、あると回答。
2. **集金の未納、衣服の汚れなどから貧困に気がつくケースが多い**
貧困を把握するきっかけは、「何らかの支払い・集金の未納」が63.4% (45名) が最も多く、次いで「子どもの衣服の汚れ・綻び」が45.1% (32名) だった。教員は子どもと毎日接しているため、子供の貧困に気づきやすく、支援団体や行政が把握することが出来ない貧困世帯を把握することが可能であると考えられる。
3. **親から貧困について相談をするケースは少ない**
貧困を把握するきっかけで、「家庭訪問の際に親から困窮状態について話があった」は8.5% (6名)、「家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた」は7.0% (5名) であり、親からの相談で貧困を把握するケースは最も少ない事が分かった。
4. **スクールソーシャルワーカーが子どもの貧困対策として活用されていない**
スクールソーシャルワーカーに相談をした経験がある教員は2% (145名中、3名) であり、相談内容も全て貧困以外の問題に関するものだった。
5. **家庭環境への介入の難しさが浮き彫りに**
学校として十分な対応が出来ない理由としては、「プライベートな部分なので踏み込みにくい」、「保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけない」、「家庭からの相談がないと触れにくい」等の意見が多く、家庭介入の難しさが明らかになった。
6. **貧困世帯と思われる子どもは、学習意欲や自己肯定感が低い**
貧困世帯と思われる子どもと、そうでない子どもとの比較において、
 - (1) 「学習意欲が低いと思うか」という問いには、80%の教員が低いと思うと回答。
 - (2) 「いじめの対象になりやすいと思うか」という問には、45%の教員がいじめの対象になりやすいと思うと回答。
 - (3) 「自己肯定感が低いと思うか」という問では、73%の教員が低いと思うと回答。
貧困が子どもの学習意欲や自己肯定感に悪影響を及ぼしていることが分かった。

- (2) フードバンクこども支援プロジェクトの食料支援利用者を対象にしたアンケート調査を行ないました。511世帯の対象の中で、171世帯が回答しました。(回収率 33.4%)

調査結果の要点

- 1. 調査対象世帯のうち、約 3 割は子どもが幼いころから生活困窮に陥っている**
経済的に苦しいと感じるようになった時期をみると、「第 1 子出産前」「第 1 子出産直後」「第 1 子が幼児の頃」を合せると 54 名（31.6%）であった。
- 2. 「自殺したいと思った」と 22.2%が回答した**
子どもが生まれてからフードバンクを利用する前までの時期に経験したこととして、「カウンセリングや精神面での治療を受けたいと思った」が 56 名（32.7%）、「過労（極度の疲れ）で寝込んだ」が 44 名（25.7%）、「自殺したいと思った」が 38 名（22.2%）であった。
- 3. 7割近くの世帯が食料を買えなかった経験をしている**
昨年 1 年間、経済的理由で家族のために食料を買えなかった経験は、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると本調査では 67.3%となった。
- 4. 7割以上の世帯がスクールソーシャルワーカーの役割を知らない**
「スクールソーシャルワーカー」について「名称も役割も知らない」人は 45.6%で、「役割は知らないが、名称を聞いたことがある」人は 30.4%であった。回答者の 76%はスクールソーシャルワーカーの役割を知らないことが分かった。
- 5. 母親の 9 割は、1 ヶ月あたりの収入が 20 万円未満**
父親の 50.0%は 1 ヶ月あたりの収入が 20 万円未満で、母親の場合は 90.1%が 20 万円未満の収入であった。
- 6. 食料支援の申請にためらいがあった世帯は約 5 割**
50.9%が食料支援を申請することにためらいが「ややあった」と回答した。次いで「ほとんどなかった」が 19.3%で、「まったくなかった」と回答したのは 18.1%となった。
- 7. フードバンクを利用して、約 8 割の世帯で家計の負担が軽減した**
フードバンクを利用して改善したことにおいては、「家計の負担の軽減」の回答が最も多く 82.5%であった。次いで「親自身の不安の軽減」が 44.4%で、さらに「家庭内の雰囲気」が 39.7%となり、「親子の会話の増加」が 25.4%と続いた。

Ⅲ 広報、ドネイション強化

新たな寄付活動に取り組み、冬の「フードバンクこども支援プロジェクト」では、子ども達へのクリスマスプレゼントを購入することができました。2016年10月7日には認定NPO法人を取得し、さらに多くの方々に寄付の呼びかけを行ないました。また、基盤・体制づくりについて検討し、セールスフォースの導入をすすめました。

1 寄付・入会呼びかけの強化

- (1) 食品や活動資金の寄付を新規企業へ幅広く呼びかけました。新たな寄付の仕組み（かざして募金）を導入し、全国から寄付を募りました。
- (2) 寄付金控除・損金算入が出来ることを広報し、寄付を募りました。
- (3) 「クラウドファンディングサイト Readyfor」で寄付を呼びかけ、目標額 60 万を上回る 109 万 5 千円をご寄付いただきました。冬のフードバンクこども支援プロジェクトで子ども達へのクリスマスプレゼントを購入することができました。

正会員数	80 人	正会員会費	633,000 円
賛助会員数	123 人	賛助会員会費	878,000 円
特別法人会員	21 社	特別法人会費	3,370,000 円
		合計	4,881,000 円

2 広報・認知度アップ

- (1) 多様なツール（フェイスブックやツイッター）を活用し、情報発信を強めました。
- (2) 事業やイベントの開催に関して積極的にニュースリリースを行いました。メディア掲載実績はテレビ・ラジオ報道 30 件、新聞・広報誌掲載 78 件となりました。また、講演や視察の依頼が増加しました。別添資料 7

3 基盤・体制づくりの強化

- (1) 認定NPO法人格の取得をしたことにより、確定申告により寄付金控除・損金算入が出来ることを広めました。企業訪問も行いました。
- (2) 既存の寄付者へのアフターフォローの仕組み作りを整えます。寄付者を管理するためのシステムの導入を検討しました。

IV 生活困窮者自立相談支援事業（自立相談支援・就労準備支援）

自立相談支援

1 生活困窮者への相談支援

(1) 食のセーフティネット事業利用者について、笛吹市・山梨市・都留市・中央市・大月市の自立支援相談窓口の依頼、返信はがきの内容、新規利用者の現状記入欄等から、相談支援が必要な世帯への訪問相談支援を行いました。

2 自立相談支援窓口との情報交換

(1) 利用者に食料支援を行なう過程や、訪問相談支援で得た情報を自立相談支援窓口と共有しました。

3 多様な機関との連携（弁護士会、SSW など）

- (1) 相談者の意向に基づいて相談場所や時間を設定するなどして支援を行いました。
- (2) 生活保護受給に関して弁護士と連携し、支援しました。
- (3) スクールソーシャルワーカーからの相談も受け付け必要な場合は食料支援を実施するなどして、連携しました。

就労準備支援

中央市から委託された生活困窮者就労準備支援事業では、利用者増加を図るためにチラシを配布し、就労相談・転職相談・面接同行等の支援を14人に行ないました。制度利用者2人には、法人内ボランティア（生活・社会自立）、就労に必要な能力の取得（社会自立）、職場体験（就労自立）の支援段階別個別メニューを実施しました。また、開設した「フードバンク山梨無料職業紹介所」には、求職者1人と求人企業2社が新規登録しました。

就労準備支援プログラム

(1) 2人の制度利用者に対し、本人と自立相談支援員との意見交換を行い、本人の意向に沿った支援プランを作成しました。指定の計画書・評価書により、毎月の振り返りと評価を行いました。また、利用者増加を図るため、14人に対し、就労相談・転職相談・面接同行等の支援を行ないました。



Se voe é esh ecom problema, entre em contato com nosco por favor esta tendo problema dentro do trabalho nos daremos suporte.

ポルトガル語の案内文を添付（「お困りごとをご相談下さい。解決に向けて一緒に考えます。」の意味）

① 法人内ボランティア

- (1) 日中の居場所を提供し、共に働きたいというご本人のニーズに対し、以下の活動へ定期的に参加しました。その結果、コミュニケーション能力の向上を計り生活のリズムが整えられました。
- ・食のセーフティネット作業（食品の小分け、お米の袋詰め、賞味期限チェック、食品移動等）
 - ・事務作業（ラベル張り、チラシ折込等）



賞味期限チェック



お米の小分け



箱詰め作業

② ビジネスマナー等

漢字書き取り等の学習、模擬面接や対人関係の訓練といった求職活動に役立つ実践的メニューを組み入れ、就労自立を支援しました。

6 職場体験・短期就労受入企業の開拓

- (1) メニューの選択肢として民間企業での就労体験やハローワーク同行等の支援を実施しました。フードバンク山梨無料職業紹介所も活用して、受け入れ企業を5社開拓しました。

V ボランティアの参加促進

フードバンク山梨の幅広い活動を支援していただくボランティアの皆さんの更なる参加を促進すべく活動いたしました。また、イベントの企画検討などにもご参加いただくことで、フードバンク山梨の活動の多角化を目指しました。

1 配送作業日変更によるボランティア参加の促進

(1) 食品配送作業日の一部を土曜日に設定し、学生や社会人のボランティア参加を促し、活動を推進しました。しかしながら、学生・社会人層が想定よりも土曜日に参加しにくく、参加者数が伸びないこともあり、行政などとの連携も考慮して今年度より再度平日の作業日に変更しました。

2 新規ボランティア参加を促す取り組みの実施

(1) ホームページやチラシ等で市民、団体にボランティア参加を呼びかけ、更なる参加者増加を促しました。



～ボランティア参加者の声～

実際に各家庭の構成を考えながら箱詰めをしてみて、何を入れたら喜ばれるか。この年齢の方は何を好んで召し上がるのか、を考えて箱詰めができました。自分に何ができるか、改めて考えるきっかけになりました。

3 学生ボランティアグループの活性化

(1) 昨年度に連携した学生グループとの協働を深め、フードバンクこども支援プロジェクトなどの効率的な実施を推進するとともに、若い世代のフードバンク活動への参加を促進する予定でしたが、主体となった学生の卒業もあり、グループとの繋がりが希薄となってしまいました。そのため、より多くの学生に参加いただくよう、年度末から山梨県内のボランティアグループ甲斐援隊にボランティア参加を依頼したところ、定期的に参加していただけるようになりました。

4 ボランティアリーダーの育成

(1) ボランティア活動をリードするボランティアリーダーを育成し、作業の効率化に努めましたが、常時参加いただける方を確保することができず、リーダーの育成には至りませんでした。現在は、長く参加いただいているボランティアの皆様、新規にお越しいただいた方への指導やフォローをお願いすることで、リーダー設置のための下地作りを実施しています。

5 ボランティア作業の多角化

(1) フードバンクこども支援プロジェクトをはじめとした企画の立案やドネーション活動、フードドライブなど、ボランティアが参加する作業を増やし、活動の幅を広げるべく、ボランティア説明会を開催いたしました。説明会では企画の検討を実施いただき、冬の「フードバンクこども支援プロジェクト」内のイベント、「サンタが贈る米魂！～おいしいごはんをこどもたちに～」のタイトルや実施方法、道具作成に検討の段階から率先して取り組んでいただきました。また、活動の周知や参加を促す方法も検討していただき、知人や企業へ実際に働きかけていただきました。



「サンタが贈る米魂！」に参加していただいた皆様



ボランティア説明会の様子

VI 食品の管理

フードバンク山梨の活動に活動に滞りのない量を確保するとともに、食品の適切な管理に努めました

1 適正な食品管理体制の構築

(1) 新たに確保した倉庫での食品管理を徹底し、食品の安全な保管に努めるべく、仕分け方法の変更などを実施しました。

2 食品取扱量の増加

- (1) 食のセーフティネット事業での支援世帯の増加を図り、食品取扱（寄贈）量の増加に取りも組みました。寄付食品量は 53238.6kg となりました。フードドライブや事務所へのご寄付など、市民の方からのご寄付は約 6 トンの増加となりましたが、企業及びセカンドハーベストジャパンからの提供が減少したことに伴い前年度比較で 25718kg の減少となってしまいました。



「フードバンクこども支援プロジェクト」との連動もあり、フードドライブは大きな盛り上がりを見せました。フードドライブやきずな BOX など、他の団体と共同して行った集荷では、前年比で約 3 トンの増加となりました。

3 災害時の対応

- (1) 災害発生時に備蓄している食品を緊急支援物資として迅速に活用するべく、4 月に発生した熊本・大分地震の際に他フードバンク団体と協力し、備蓄食料を提供しました。



Ⅶ 組織運営強化

業務管理をシステム的に行うことをめざすとともに、積極的に研修に参加し、人材育成に努め、新たに人事評価制度を導入し、組織運営を強化しました。また、運営基盤を強固にするためにアドボカシー活動に取り組みました。

1 人事評価制度の導入

- (1) これまで着手していなかった人事評価制度について検討し、導入しました。自己評価も取り入れたことにより、自身を振り返ることにもつながりました。

2 業務管理システムの確立

- (1) 昨年度から導入した業務管理を精査し、変更を行いました。今後さらに充実させ、システム化していきます。

3 人材育成の取り組み

- (1) 定期的な内部学習会は実施できませんでした。
- (2) 外部研修会へ積極的に参加し、スキルアップを行いました。
- ・生活困窮者自立支援全国研究交流大会
 - ・子供・若者育成支援のための地域連携推進事業 ブロック研修会
 - ・コミュニティ・オーガナイズング・ワークショップ
 - ・ファンドレイジング研修
- (日本レガシーギフト協会、クラウドペイメント、寄付月間公開シンポ)

4 アドボカシー活動

- (1) 山梨県
- ・生活困窮者自立支援緊急対策事業終了に伴い、知事および担当部署に事業継続を要請しましたが、条例の定めもあり、終了となりました。
 - ・山梨県の事業終了により、町村部の食料支援の予算がなくなるため、14 町村長へ文書で運営資金分担要望を出し、訪問しての要請も行いましたが、予算計上には至りませんでした。
 - ・理事会で検討し、町村部約 100 世帯への食料支援は、寄付活動を強め、自主財源で継続することを決議しました。
- (2) 各市
- ・南アルプス市、中央市、笛吹市において、教育機関との連携によるフードバンクこども支援プロジェクトを実施しました。
 - ・中央市と笛吹市においては、「子どもの貧困対策連携協定書」を締結しました。
 - ・南アルプス市と中央市の市長と教育長へは、子どもの貧困対策としての地域ネットワーク事業実施を提案しました。

Ⅷ 全国フードバンク推進協議会

全国フードバンク推進協議会の事務局を担い、会員フードバンク団体への支援や中央省庁への働きかけを行ないました。

1 ネットワーク構築

- (1) 全国フードバンク推進協議会へ参画し、事務局を担い、全国各地のフードバンク団体とのネットワークを構築しました。全国フードバンク推進協議会の加盟団体は、16 団体から 21 団体へ増加しました。

2 ノウハウ支援、新設団体の立ち上げ支援

- (1) 全国フードバンク推進協議会の事務局として、各地のフードバンク団体へのノウハウ支援、新設団体の立ち上げ支援を行ないました。

3 組織基盤を構築

- (1) 全国フードバンク推進協議会の事務局として、都内の企業や政策提言に必要な中央省庁との窓口を作るために、都内に組織基盤を構築しました。
- (2) ヴァンフォーレ甲府とフードバンク山梨のフードドライブをモデルにして、Jリーグに全国での開催を提案しました。現在 Jリーグで検討中です。

4 アドボカシー活動

(1) 国への政策提言

- 全国フードバンク推進協議会を通して、内閣府の子供の貧困対策推進室へ活動を紹介しました。
- 子供の未来応援国民運動冊子の活動紹介に掲載されました。

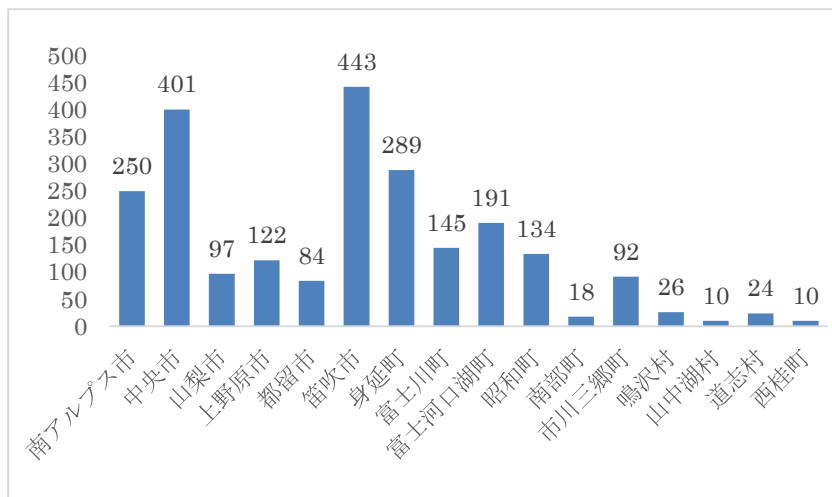


全国フードバンク推進協議会 内閣府「子供の未来応援基金」贈呈式

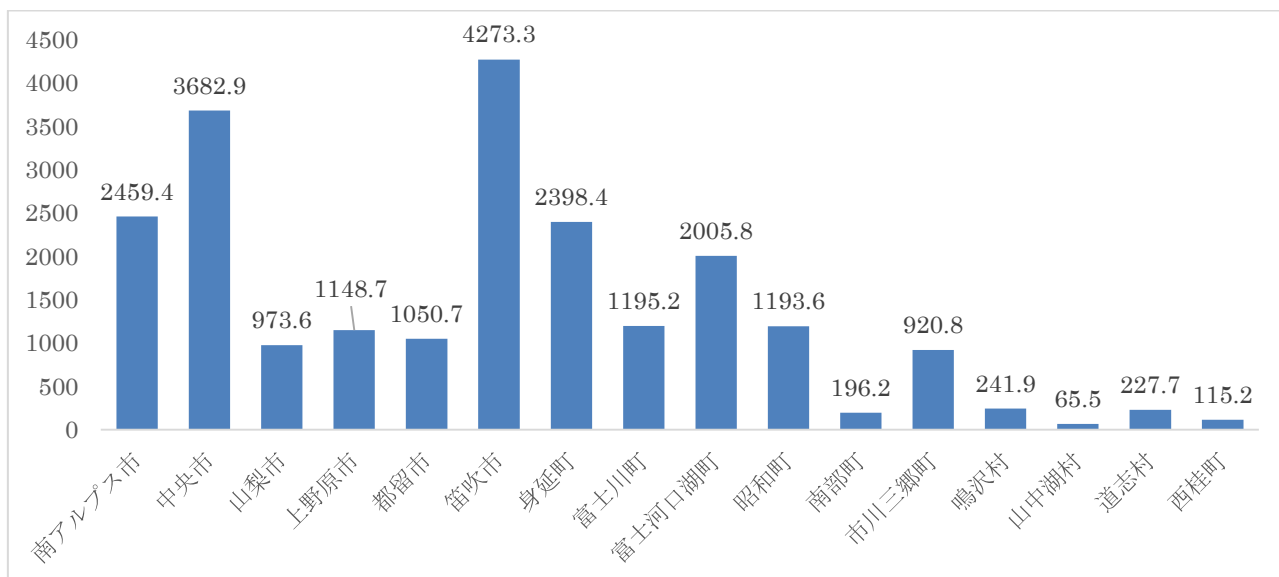
別添資料1 2016年度 個人宅配 延べ配送数

	件数	重量(kg)
4月	196	1864.2
5月	204	1930.9
6月	212	2107.6
7月	121	2246.2
8月	119	1068.4
9月	220	2257.5
10月	231	2016.4
11月	223	2002.6
12月	142	1025.8
1月	223	1966
2月	215	1742.7
3月	230	1920.6
合計	2336	22148.9

2016年度 個人宅配市町村別延べ配送件数

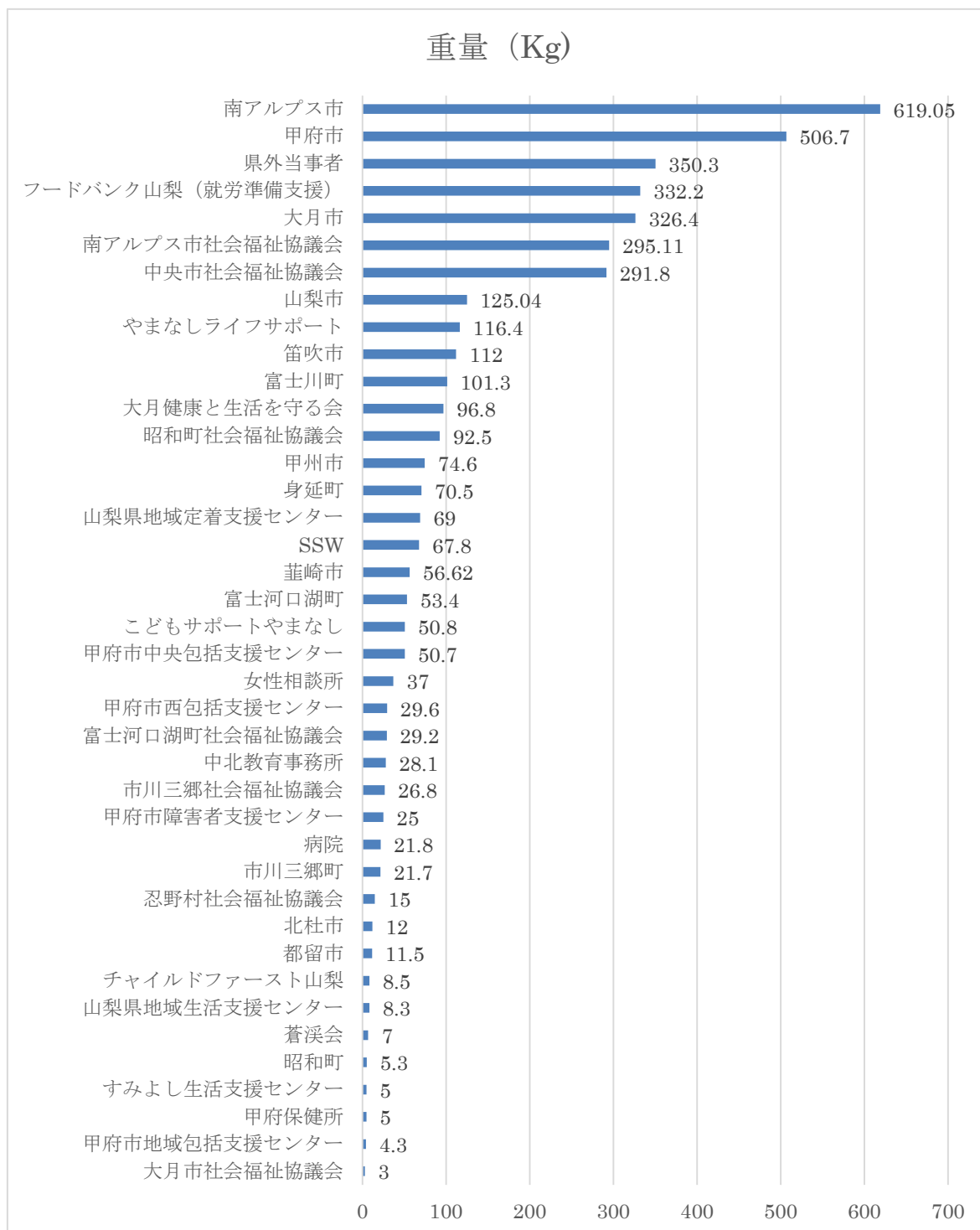


2016年度 個人宅配 市町村別延べ配送重量



別添資料 2

2016 年度緊急食料支援機関別提供数



別添資料3

第55号

ふーちゃん通信

～食品に沢山の愛をこめて～



2016年8月24日発行
誰もが食をわかちあえる社会のために

NPO法人 フードバンク山梨
〒400-0214
山梨県南アルプス市百々3697-2
TEL 055-298-4844
FAX 055-298-4885
Email info@fbyama.com
URL www.fbyama.com



残暑見舞い申し上げます！

フードバンク山梨より、残暑見舞いを申し上げます。
立秋とは名ばかりの暑い日が続いております。皆様はいかがお過ごしでしょうか。
季節柄、猛暑の後急に冷え込むこともあり、急な気温の変化で体調をくずされませぬようご自愛ください。

簡単ふくらはぎマッサージで夏バテを乗り切りましょう♪

ふくらはぎのむくみを解消すると、全身の血流がアップし、疲労回復になります。イスに座り、片脚をもう一方の脚に乗せて、ふくらはぎをぞうきん絞りのイメージでもみほくしましょう！



台風にご注意！



先日は山梨県にも台風が接近し、激しい雨となりました。
台風のシーズンは8月から10月。
これからも上陸が予想されます。
突然の大雨や突風が襲うこともありますので、お出かけの際は天気予報と空模様の確認しましょう。
また、大変危険ですので側溝や川に近づかないように。
なるべく外へ出かけないようにして、特に夜間は外出を控えてください。

次回の食品発送日は9月9日、10日です。
到着日は10日、11日、12日のいずれかになります。

皆様からのお手紙

いつも楽しみにしています。
ありがとうございます。
お弁当を毎日作っているので、お米が入っていたのに驚き、ありがたく頂いております。
支援して下さる多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

おいせ

- ・油、だし、醤油などの調味料やコーヒーや緑茶など沢山ございます。ご希望の方は返信ハガキにてお知らせください。
- ・日々のできごと、考えていらっしゃることを、返信ハガキでフードバンク山梨に教えてください。お便りお待ちしております。



別添資料4

フードバンク山梨 28/25

生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

先日はお気遣いいただきまして
お言葉のいとお礼申し上げます。
お米もめん類も十分に届きました。
本宅に到着したらご挨拶です。
米が病愈して以来、お打
生までおられたのもフードバンクの助け
で、食料も必要なくなりました。
多くの皆様のお力のおかげで支障な
い生活が送れています。
心よりお礼申し上げます。

足りている食品:

※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応え
できないことがあります。
※切手を貼らずにポストにお出し下さい。

フードバンク山梨 28/25

生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

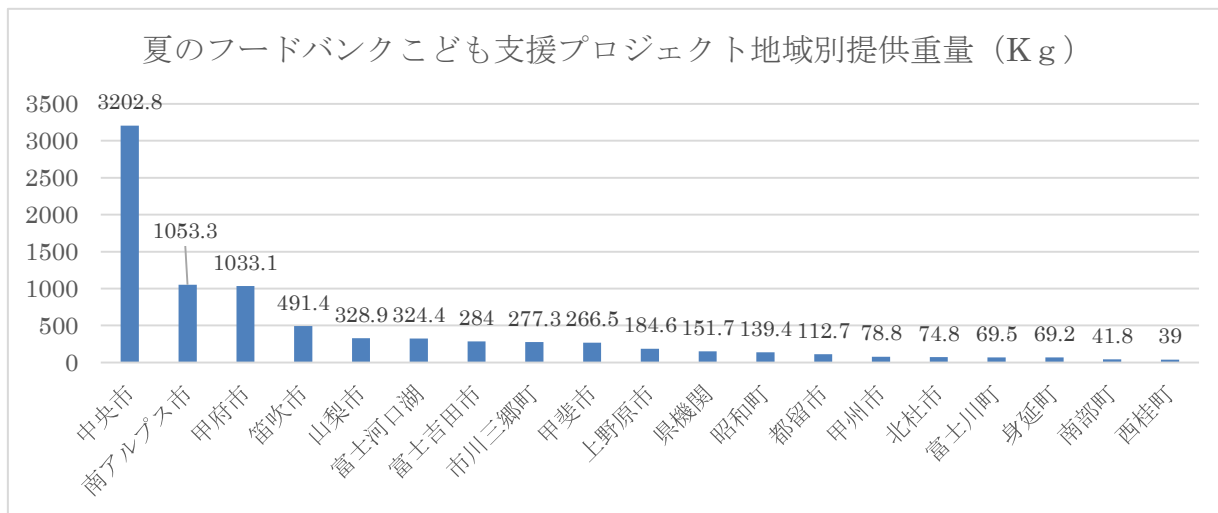
いつもお世話になっております。
お返事をさせていただきます。
私の人生これで終りにするかと
考え事もありました。家族も
おもうと、私だけでも何にも出来
ず、加齢が心配な気がして、
この方にもお力を貸して、
嬉しく思っています。本物には
心です。おかげで、
行事も足りました。
おかげで、お返しも
足りている食品:

足りている食品:

※寄付していただいた食品のため、全てのご要望にお応え
できないことがあります。
※切手を貼らずにポストにお出し下さい。

別添資料 5

2016 年度フードバンクこども支援プロジェクトの地域別配送重量内訳



2016 年度フードバンクこども支援プロジェクトの地域別配送数内訳

(重量は 10.5kg に統一)

